

農業活動形態からみた農村景観の成り立ちと保全方策に関する研究

—「農村景観日本一」の岐阜県恵那市岩村町富田地区を対象として—

A Study on the Formation Process and Maintenance Policies of Rural Landscape as seen from Agricultural Activities

—Case study of Iwamura-cho Tomida, Ena-shi of Gifu prefecture—

○小泉雄大<sup>1</sup>, 横内憲久<sup>2</sup>, 岡田智秀<sup>2</sup>, 柴田響<sup>1</sup>

\*Yuta Koizumi<sup>1</sup>, Norihisa Yokouchi<sup>2</sup>, Tomohide Okada<sup>2</sup>, Hibiki Shibata<sup>1</sup>

Abstract: The purpose of this paper is to grasp the characteristics and issues in rural landscape of Tomida district as seen from agricultural activities. As a result, this paper clarified the following; (1)Pattern of landscape as seen from agricultural activities, (2)Landscape problem as seen from Geographical features and so on.

1. 背景および目的—近年, 減反政策に伴う転作地の増加をはじめ, 農業の主労働力の高齢化や過疎化による耕作放棄地の増大など, 農村景観の形成に関わる農業経営問題が露呈している<sup>[1]</sup>. 中でも棚田は, ひとたび維持管理を怠ったり, 転作地ともなれば水田に戻すためには元の3倍以上の労力が必要になるとも言われている<sup>[2]</sup>. 棚田が作り出す風景は, 立地する地形の造形性による美しい日本の原風景として認識されており, 1990年代頃から水資源や生態系の保全機能など多面的な価値が見直されつつある. 棚田景観保全に関する既往研究においては, 棚田オーナー制度や棚田ボランティアといった営農を維持させるための組織形態を提案する論文が多数見受けられる<sup>[3]</sup>—一方, 日本の原風景である棚田の景観形成について, 年間の農業活動からどのように成り立たせるべきかを紐解いた研究はみられない. 景観を地域の現状・将来を映し出す鏡と例えるならば, 今後さらに進むであろう少子高齢社会においても, 魅力的な農村景観を維持・創造していくための新たな保全方策が求められよう.

そこで本研究は, 棚田地域における農業従事者の活動形態を把握することにより, その景観的特徴および問題点をとらえ, それらを通じて望ましい農村景観保全方策について考究することを目的とする.



写真1 富田地区全景

表1 調査概要

調査方法	現地踏査	ヒアリング調査(直接対面形式)
調査期間	2014年8月18日(月)~20日(水)	2014年8月20日(水)15:05~16:50
調査対象	富田地区全域	・NPO法人農村景観日本一を守る会理事長の吉村攻平氏 ・NPO法人農村景観日本一を守る会理事の神谷良男氏 ・富田をよくする会会長の細井健吉氏 ・美濃文プランニング事務所代表の中田誠志氏 ・一般農家の成瀬功氏
調査内容	・富田地区における農地利用状況および農業活動実態の把握	

2. 研究方法—本稿では農業従事者の活動形態を把握するにあたり, 「農村景観日本一」の称号を持つ岐阜県恵那市岩村町富田地区(写真1)において, 表1に示す調査を実施し, 富田地区における農村景観の特徴と問題点を「農業活動」と「地理的特徴」の2つの視点で考察を行う.

3. 結果および考察—上述した調査の結果に基づき, 富田地区における1年間の農業活動内容と農地の景観パターンを表2に, 耕作地の地理的特徴と景観的課題を有する現地写真を図1に示す. 以降では, これらをもとに特徴的な内容を述べていく.

(1)農業活動からみた景観パターンと課題点—農作業に応じて1年間の中で9種の景観パターンを捉えた. この中で, 最も作業が長期にわたり, 水田の区画を際立たせるという意味において, 景観形成上の骨格となる要素として「ボタ草刈り」を捉えた. この課題点としては, ①農業従事者間においてボタ草刈りのタイミングが合わず, 現状は手入れされた統一感のある全体景観が現出できていない(写真2), ②ボタ草刈りの手間を省くために除草シートでボタを覆う場所が出てきており, それが見栄えを劣化させている(写真3), ③ボタ草刈りは「機材で刈る方法」および「機材でなぎ倒す方法」の2つがあり, 刈り取った草についてもそのままに放置しておくことや集めて燃やすなど, 所有者によって処理方法が異なるため, その姿も不統一であるといった現状があげられる. こうした要因は, 農業従事者が自身の水田の見栄えを意識しているものの, 集落全体の景観形成という視点が共有されていないことによるものであると捉えた. したがって, 「農村景観日本一」の称号はあるが, その景観的価値を今後も維持していくには, 地域全体としての景観形成ビジョンの構築が急務といえよう.

(2)地理的特徴からみた景観問題—図1に示すように用水路から遠い場所は水入りが悪いいため, 転作地や耕作放

1: 日大理工・学部・交通 2: 日大理工・教員・まち

表 2 富田地区における 1 年間の農業活動内容と農地の景観パターン(筆者がヒアリング内容をもとに作成)

[凡例] ■ 実施期間

農業活動	3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		景観的特徴
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
<b>[秋おこし]</b> 収穫後の田おこし 残った株等も一緒に 土に混ぜ込み土壌 づくりを行う																								・糞は肥料として再利用 ・農家全体の8割が行う作業 ・1反1時間,1日で終わる ・兼業農家の方は空き時間で実施 ・雪が降るまでに実施	
<b>[苗作り]</b> パケツや苗床で苗を発 芽させる				■	■																				
<b>[田おこし]</b> 土を混ぜ土壌づくりを行う				■	■																				
<b>[水つけ]</b> 田に水をはる																									
<b>[ポタ草刈り]</b> ポタと呼ばれる田の境 界線にある土手の草 刈りを行う																									
<b>[田植え]</b> 苗を田に植える																									
<b>[除草剤散布]</b> 雑草が生えてくるのを抑 制させる薬を散布する																									
<b>[水田管理]</b> 稲の育成に必要な水 の入れ替え,また除草 作業などを行う																									
<b>[水抜き]</b> 稲刈りの際に機械を田 に乗り入れさせるため, 水を抜き地盤を固める																									
<b>[稲刈り]</b> 稲を収穫する																									

棄地になりやすいことを捉えた。現状ではこうした農地が点在していることから、特に田植え後において富田地区全体が見渡せる展望台(重要視点場)からの眺望は、モザイク状の不揃い感を与える(写真4)。また、転作地で耕作する作物の違いにより更にその印象が強調されている。

このような景観問題の解決策としては、もともと水田であったところは新たに水路整備を行うことにより水田に戻すことの検討、その他の転作地は展望台などの重要視点場から目の届かない山裾に移動させる集約的配置など、重要視点場から望む農地の統一感を図ることが重要と考えられる。洞(ホラ)の扱いについては、日照不足や獣害問題により荒廃化が進んでいる。これらより、人口減少時代の農地の在り方として、荒れた洞農地は順次山に戻すこと、さらに農地の中心部で発生した耕作放棄地は、山裾にある生きた農地と交換し、交換後の山裾の農地を山に戻すことにより、地域全体として農地のコンパクト化を目指すなどの方途が考えられる。ただし、これらの方策の実現化にあたっては、今後の農業政策と現地の実情を踏まえつつ、その有効性を検証していく必要がある。

4. 謝辞

本研究を進めるにあたり、多大なご協力を頂いた吉村政平氏、神谷良男氏、細井健吉氏、中田誠志氏、成瀬功氏、そして岐阜県庁、恵那市役所、ならびに恵那農林事務所の職員の皆様に感謝の意を表します。

5. 参考文献

[1] 川上孝四:「水田の利用は稲作で」、農業土木学会誌, Vol.68, No. 2, pp.49-50, 2000. 2  
 [2] 野口慎吾ら:「中山間地域における文化的景観としての棚田の現代的意義と、その維持管理及び集落の自治機能に関する研究」、日本建築学会研究報告(九州支部, 計画系), pp.197-200, 2009. 3  
 [3] 例えば永菅裕一:「棚田と人をつなぐ仕組みの現状と課題: 棚田を保全・活用するための「ヒト継ぎ」ヒト起こし」の提案」、日本の科学者, Vol.49, No. 4, pp.236-241, 2014. 4



写真2 ポタ管理状況 写真3 除草シート 写真4 モザイク状農地



図1 耕作地の地理的特徴と景観的課題を有する現地写真(筆者が現地踏査およびヒアリング内容をもとに作成)